

## 学力向上プロジェクト報告

### 委員会の組織

◎美斎津昭博（川路小） ○手塚 幸宏（遠山中） 伊藤 栄勇（飯田東中）  
 加室 優（鼎小） 海沼 峰華（三穂小）  
 湯本 正芳（学校教育専門幹） 竹村 公彦（教育企画担当主幹）  
 塩澤裕美子（教育指導専門主査） 北原 雅浩・塩澤 忍（教育支援指導主事）

### 1 調査研究の視点

視点① リーディングスキルテストによる読解力の診断とNRT及び全国学力・学習状況調査の結果をとおしての読解力と学力の相関関係の考察  
 視点② 学力向上につながる読解力向上のための方策

### 2 調査研究の内容

(1) リーディングスキルテストの実施 \*リーディングスキルテストについて [別紙資料参照](#)

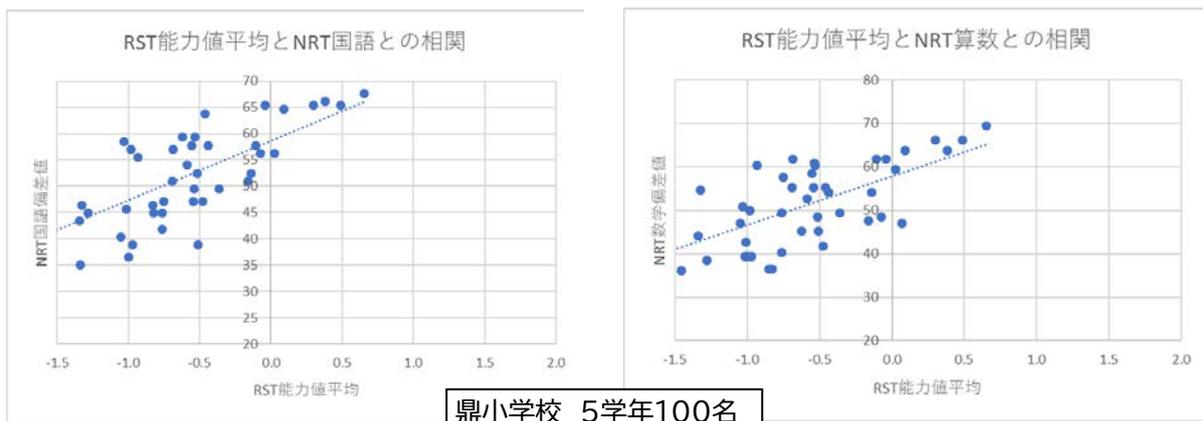
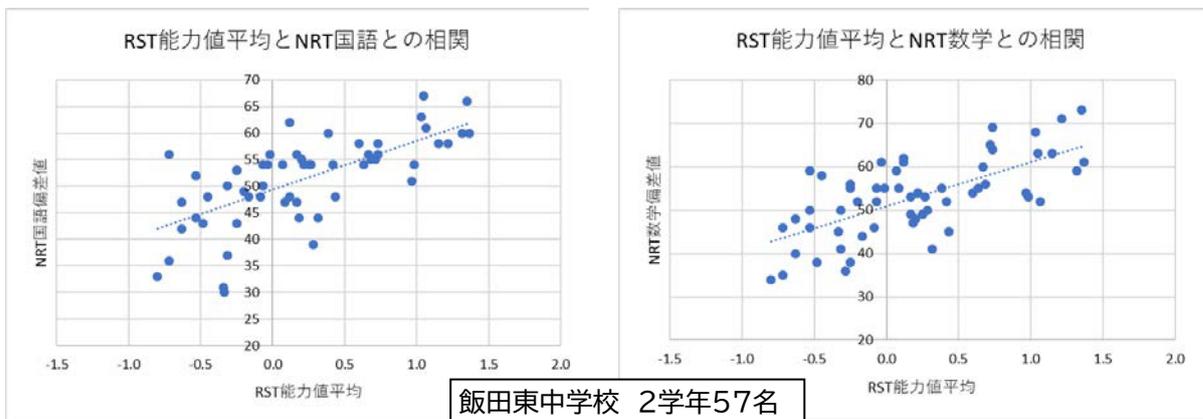
- ①実施児童生徒 飯田東中学校2学年65名 遠山中学校全校28名 鼎小学校5学年105名  
 三穂小学校5・6学年30名 川路小学校5・6学年26名
- ②実施期間 令和3年度9月～11月
- ③検査にかかる費用 飯田市教育委員会より支出

(2) リーディングスキルテストによる読解力の診断とNRTの結果をとおしての考察

①リーディングスキルテストによる読解力の診断について [別紙資料参照](#)

マニュアルや仕様書、契約書等、ビジネスで必須になる事実や抽象的概念について記述された文書を正確に理解し、具体的な場面に適用して、判断する能力を測るものであり、事実について記述されている文書を、文レベルの正確な読解ができるかを診断する。

②リーディングスキルテストの診断結果とNRTの結果の相関図



### ③ 相関関係の考察

① 相関図より読解力と学力は相関関係があると言える。また、各学校におけるリーディングスキルテストによる読解力の診断と全国学力・学習状況調査、定期テスト（中学校）の結果について、児童生徒一人ひとりの状況の比較からも相関関係があることがわかった。

読解力と学力は相関関係にあり、読解力の向上に特化した取組を行うことで、学力の向上が期待できるということが言える。

### (3) 学力向上につながる読解力向上のための方策

来年度に向けての提言となるため、「4 来年度に向けての提言」に記載。

## 3 成果と課題（2 研究の内容と対応）

- (1) 「教育のための科学研究所」による「リーディングスキルテスト」を利用したことで、読解力の診断、分析を行うことができた。また、この検査の費用を飯田市教育委員会より支出していただいたおかげで実施することができた。
- (2) 読解力と学力には相関関係があるという興味深い結果を得ることができた。このことを、学力向上のための今後の取組に生かしていきたい。
- (3) 読解力向上のための方策を検討することとおして、読解力の理解が深まり考え方を広げることができた。今回提案する方策に取り組み、その成果と課題を明らかにしていけるとよい。

## 4 来年度に向けての提言

今年度の調査研究内容である「読解力向上の方策」について、来年度の調査研究プロジェクトで具体的にどのように行っていくのか、どのように時間を確保するのか等を検討し、実際に取り組んでみたらどうか。方策に継続的に取り組み、学力との関係を検証して成果と課題を明らかにすることで、学力向上への取組が提案できそうである。

### 読解力向上のための方策

#### ① 読書の時間の確保

読書の有用性は様々であるが、読解力向上のためには、何をどのように読むのかという具体的な視点を設けることが大切である。

#### ② 読解力を高めるためのドリルの実施

I C Tを活用したドリル学習。（ソフトの検索、業者による開発の投げかけ）

#### ③ 説明文を読む機会を増やす

新聞の社説を読む。デジタル版で読むことも考えられる。

#### ④ 主体的・協働的な学びにおける読解力に視点を置いた国語科の授業改善

正確に読み取るためのスキルを小1～中3にかけて学年ごとに系統的に身につける。

条件つき文章を読み取ったり、記述したりする力を伸ばしていく。（業者のソフト開発の投げかけ…業者で、現在記述式の問題の開発に取り組んでいる）

## 学力向上プロジェクト

**別紙資料** 「教育のための科学研究所」リーディングスキルテストのリーフレットより抜粋

リーディングスキルテストとは？

リーディングスキルテストは、情報・システム研究機構 国立情報学研究所 新井紀子教授を中心とした研究グループが汎用的読解力を診断するために考案したテストです。科学研究費補助金は年限があるため、本研究の成果を社会に広く普及させることを目的に一般社団法人「教育のための科学研究所」（代表理事・所長 新井紀子）を設立し、ここにおいてリーディングスキルテストおよびその診断に基づく、汎用的読解力向上のための教育支援を行うものです。

文章全体の読解のプロセスは、文字・単語、文、談話の3つの処理レベルに大別できます。文字や単語を処理できなければ、文を読めません。文を読めなければ、より大きな単位である談話（段落やテキスト全体）を理解できません。

これまで、文字や単語の読み書きに関するテストは多数考案されてきました。また、学校教育では「読解＝国語」と認識されており、国語の論説文読解問題のように談話全体の内容理解のテストも存在します。一方で、マニュアルや仕様書、契約書等、ビジネスで必須になる事実や抽象的概念について記述された文書を正確に理解し、具体的な場面に適用して、判断する能力を測るテストは考案されてきませんでした。リーディングスキルテストは、事実について記述されている文書を、文レベルの正確な読解ができるかを最先端のテスト理論を用いて診断する画期的なテストです。

リーディングスキルテストは、項目応答理論に基づく適応型テストです。受検者の読解力に合わせた問題を適宜出題するため、すべての受検者が同じ問題を解く通常のテストに比べて、圧倒的に少ない問題かつ高い精度で能力値を測定できるのです。

リーディングスキルテストが測る6分野（7項目）の汎用的読解力

リーディングスキルテストは以下の6分野7項目の問題群から構成されます。

- ① 係り受け解析 (Dependency Analysis : DEP)
- ② 照応解決 (Anaphora Resolution : ANA)
- ③ 同義文判定 (Paraphrasing : PARA)
- ④ 推論 (Logical Inference : INF)
- ⑤ イメージ同定 (Representation : REP)
- ⑥ 具体例同定 (Instantiation : INST)
  - (ア) 具体例同定辞書 (INSTd)
  - (イ) 具体例同定理数 (INSTm)